

# 新湯治紀行（鳴子温泉郷）

還暦を過ぎるとふと昔の事が懐かしくなることがある。

子供の時はいつもそばにいたが、存在感のないようなものがあった。



鳴子温泉郷は、地質学的に3種類の位置から温泉（療養泉）が湧出し、塩化物泉、炭酸水素塩泉、硫酸塩泉、含鉄線、酸性泉、硫黄泉、単純温泉と7つの泉質が楽しめる。

昔から「脚気（かけ）川渡」「胆石（たんせき）田中」「疝気（せんき）車湯」「瘡（かさ）鳴子」と称される温泉郷である。



自分の成長と共に身近にあったものは、片付けられていく。

そして、身近な風景も変わっていく。

自分の体調は、疲れが残るようになり、秘湯の旅に興味を持つようになってきた。



今は、家で見ることのないこけし。懐かしい素朴なこけしに会いたくなった。

空気のような存在であったこけしが、東鳴子温泉、鳴子温泉、川渡温泉と温泉巡りに連れて行ってくれた。

そして、日本こけし館を見学し、お土産にこけしを選んだ。

2泊3日の旅であったが身体の調子は整い、私の机の上にこけしが、一つ現れました。

